



予算

佐藤 淳一

問 平成31年度予算の編成方針について伺う。

市長 復興からの脱却、身の丈にあった財政規模への予算縮小が大きな方針です。

問 事業評価によって、廃止など見直された事業はあったのか伺う。

政策企画課長 事業の統合で廃止が4事業ありましたが、即座に廃止するのはなかなか難しいです。

問 地域や市民から予算への要望は何件程度あったのか伺う。

総務部長 集計していません。件数は把握していません。

問 厳しさを増す市財政への理解を深め、予算(税金)の最適配分、市民との協働などを更に進めていくためには、予算編成の透明化が必要と考える。市民からの意見を広く伺い、要望をフェアに判断できる取組を検討してはどうか伺う。

総務部長 市民の要望、意見は担当部署が伺い把握できているものと考えています。予算編成作業は市の大事な意思形成過程の情報ですので、透明化は慎重に行うべきと考えます。

進んだ取組を検討すべき

問 四條畷市では市長が各地区で意見交換会を行い、動画をノーカットで公開して、要望についての透明化を行っている。また岡山市では予算の要求状況や査定状況、そういった予算の核心部分の透明化(公開)が行われている。市の収入は市民の皆さまからの税金であり、先進自治体を研究し検討を進めるべきと考えるがどうか。

市長 現在は、町内会長や区長を中心とした予算説明会を行い、ご意見は次の予算などへ生かしています。できる限り多くの意見を反映させたい思いはありますので、努力をしたいと思えます。

問 いざという時への蓄えとして財政調整基金、施設保全整備基金を積み立てているが、適正規模はどのくらいと考えているか。

市長 施設保全整備基金は多いほどよく、財政調整基金は予算規模の10%程度と考えています。

◎その他の一般質問
・市民交流プラザ



農福連携

菊地 忍

問 農家の高齢化に伴う労働力不足と障害者等の就労の場の確保を求めている福祉分野の連携として注目されている農福連携は、障害者にとつて、能力を発揮して社会に参加し経済的な自立にもつながる。また、土に触れ、植物を育てることとで精神的にも肉体的にもよい作用をもたらすと期待されている。農業と福祉における双方の課題を解決しつつ、双方に利益があるWin・Win(ウィン・ウィン)の関係を探求して作り上げていくことがこの連携の目的であり、障害者等の就労の場の確保や農山村の活性化など、活力ある地域づくりにつながる事が期待されている。農福連携について見解を伺う。

害者が生産に関わったことを示す新しい基準を設け、障害者が農業や漁業にかかわる農福連携への理解促進や就労機会の拡大につながることを進めている。若沼市もみやぎ農福連携推進ネットワークの構成員となり、農福連携を推進してはどうか伺う。



市民経済部長 昨年10月に第1回目のみやぎ農福連携推進ネットワーク会議が開催されています。実は若沼市も会議に参加していますので、(参加を)検討します。

◎その他の一般質問
・これからの防災対策
・香害(こうがい)と化学物質過敏症への対策

問 JAS(日本農林規格)は障
農福連携のPRに新基準